159自治体を含む3,746名のタバコ対策担当者様、名刺交換・講演・原稿依頼をされた方
　　EBTC、禁煙推進学術ネットワーク、日本呼吸器学会禁煙推進委員会の皆様へ　bcc配信 3201-3746
　　　　　　　　　産業医科大学　大和より（転送・拡散・紹介歓迎）

久しぶりの発信は、産業医科大学の財津教授と大阪の田淵貴大先生の研究グループの成果です。
産業医科大学のホームページにプレスリリースとして紹介されました。
加熱式なら良いだろう、と勘違いしている人達に教えてあげて下さい。

妊娠中の加熱式タバコ喫煙と子どものアレルギー発症リスクの関連性が世界で初めて明らかに
<https://www.uoeh-u.ac.jp/index/topics/press20221013>
　本学（産業医大）の研究者により、妊娠中に母親が加熱式タバコを喫煙することで、
　子どものアレルギーのリスクが上昇する可能性が初めて明らかになりました。
　妊娠中の加熱式タバコの禁煙の啓発を加速させる必要があります。

　世界的に見て、新型タバコによる健康影響が公衆衛生上の大きな懸念となっております。
　特に、妊娠中の新型タバコの喫煙は、生まれてくる子どもに悪影響を与えている可能性がありますが、
　加熱式タバコおよび電子タバコともにエビデンスがなく不明でした。

　そこで、産業医科大学高年齢労働者産業保健研究センターの財津將嘉教授は、
　大阪国際がんセンターがん対策センターの田淵貴大部長補佐らとともに、
　大阪国際がんセンターが保有しているJACSIS妊産婦調査（2021年）の産婦と子どものペア
　5688組のデータを用いて、妊娠中の母親の加熱式タバコの喫煙と生まれてきた子どもの
　アレルギー発症リスクの関連を求めました。

【判明した事実】
①　妊娠中に加熱式タバコを喫煙していた母親から生まれたこどものアレルギー発症率は
　　平均値の約2倍の上昇を示しました。
②　加熱式タバコを一度も喫煙したことがない母親から生まれた子どもに対して、
　　妊娠中に加熱式タバコを喫煙した母親から生まれた子どものアレルギー発症は用量依存的に上昇し、
　　加熱式タバコの喫煙量が1日1本増えると、アレルギー発症率が5%上昇しました。
③　アレルギー発症リスクは、妊娠初期に加熱式タバコを喫煙した場合が一番高く、
　　加熱式タバコを禁煙すればリスクが半減しました。

　本研究成果は、権威ある学術誌に掲載が決定し、オンラインにて先行早期公開されています
（European Academy of Allergy and Clinical Immunology (EAACI)が発行する国際的医学雑誌である「Allergy」）。
Open Access
<https://onlinelibrary.wiley.com/doi/full/10.1111/all.15536>

＠＠＠＠＠＠＠＠＠＠＠＠＠＠＠
807-8555　福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1　ダイヤルイン：093-691-7473
産業医科大学　産業生態科学研究所　健康開発科学研究室　大和　浩
タバコ対策：<http://www.tobacco-control.jp/>
３日経っても返信がない場合、リマインドメールをお願い致します。
無煙ニュース：<https://www.mag2.com/m/0001691332>
タバコに関する資料（PDF）
<https://www.dropbox.com/sh/2kv8bwm7nf90r8c/AABV5uNCc4BJjYWC47Q4tVR5a?dl=0>